



# 景観まちづくりにおける合意形成への課題

金井雅之（専修大学）

景観まちづくり住民会議

第1回「景観まちづくりキックオフ！」

平成23年11月20日、小野川会館



# 簡単な自己紹介

- ❖ 専門は「社会学」
- ❖ 社会関係の観点から観光まちづくり研究
- ❖ 山形県を含む56ヶ所の温泉地の旅館を対象とするアンケート調査（2007年）
- ❖ 三沢地区の住民350人を対象とするアンケート調査（2008年）
- ❖ 2010年3月まで山形大学に所属





# 本日のお話の流れ

## 1. 2008年三沢調査の紹介

- 「小野川温泉景観指針」(2006年)に対する評価を中心に
- 観光関係者とそうでない人との間には、どのような意識の差があるか？

## 2. まちづくりのプロセスにおける 「人の和」の重要性

- 温泉地調査の分析結果より
- 地域内部での結束 vs 外部からの知恵

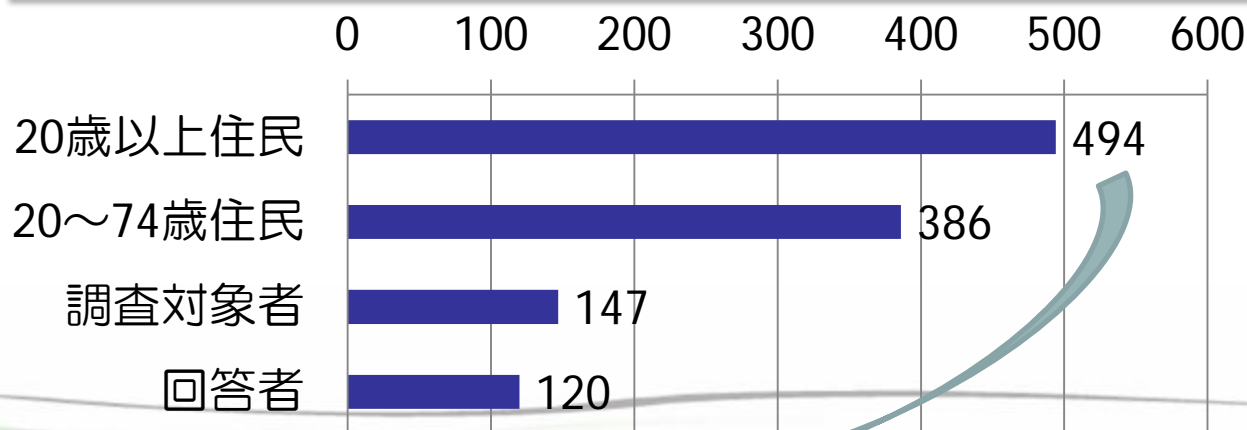




# 三沢調査(2008年)の概要

- 三沢地区(赤芝町・小野川町・大字築沢)に住む20~74歳の方が対象
- 小野川町では147人中120人(82%)から回答

→ 今日のお話はすべて小野川町のみデータ

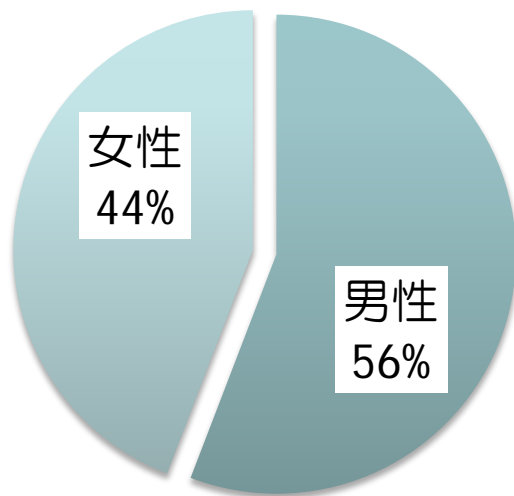


大人全体の約25%の方々から得られたデータ

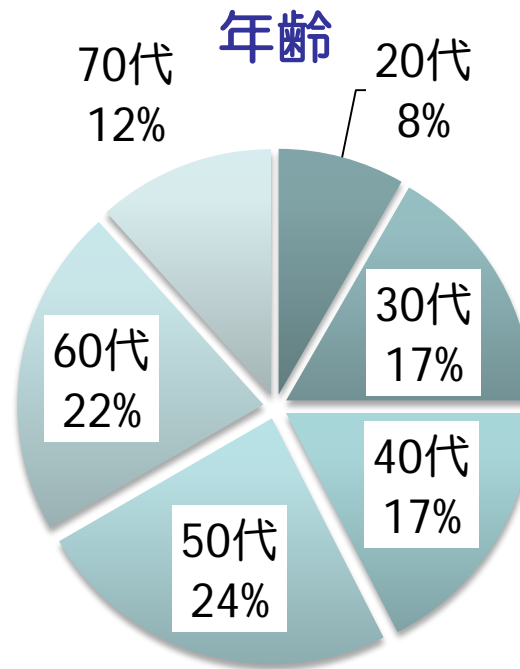


# 回答者の性別・年齢

性別

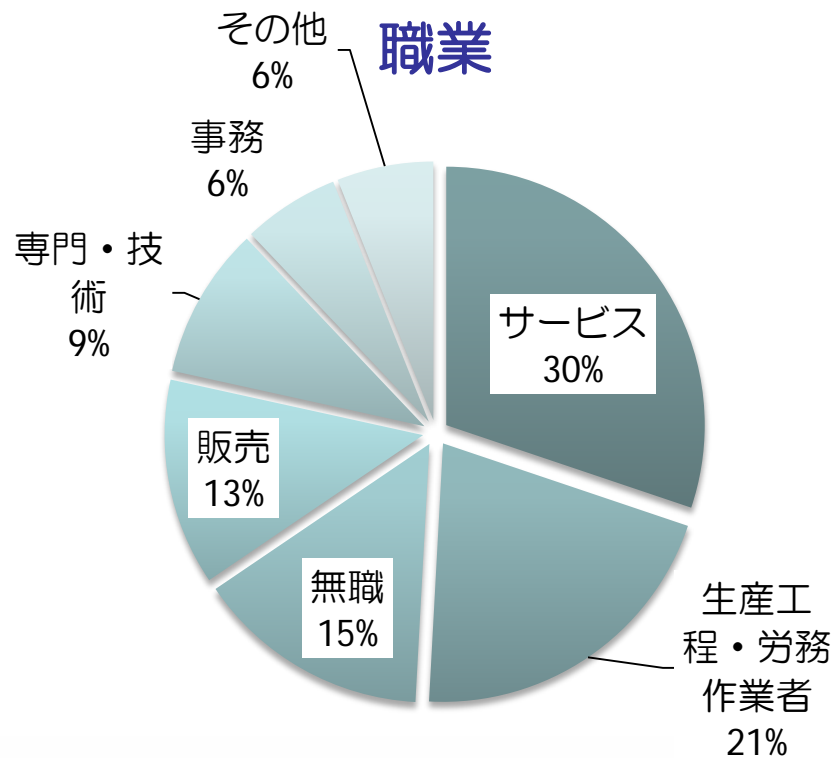


年齢

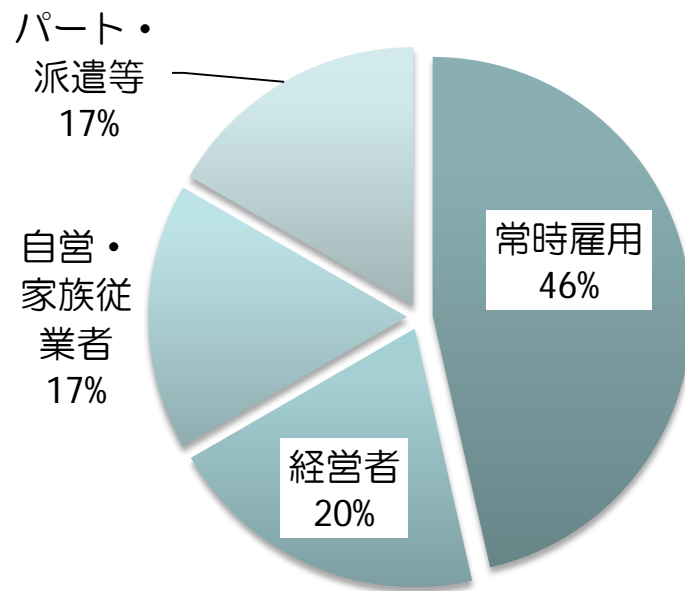




# 職業・従業上の地位



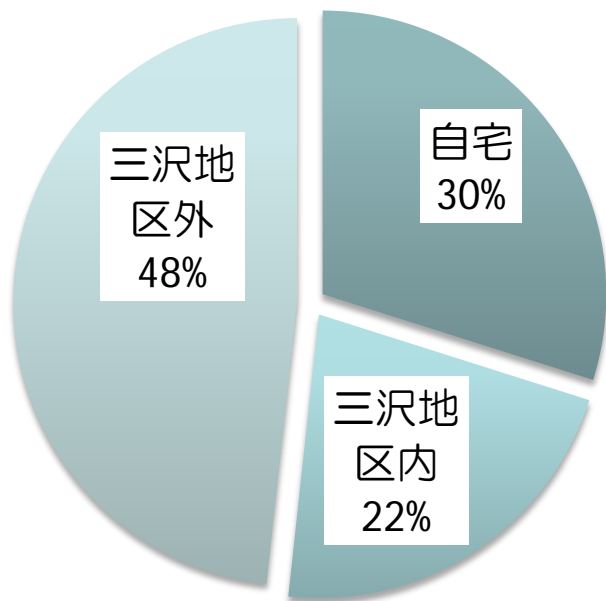
## 従業上の地位(無職除く)



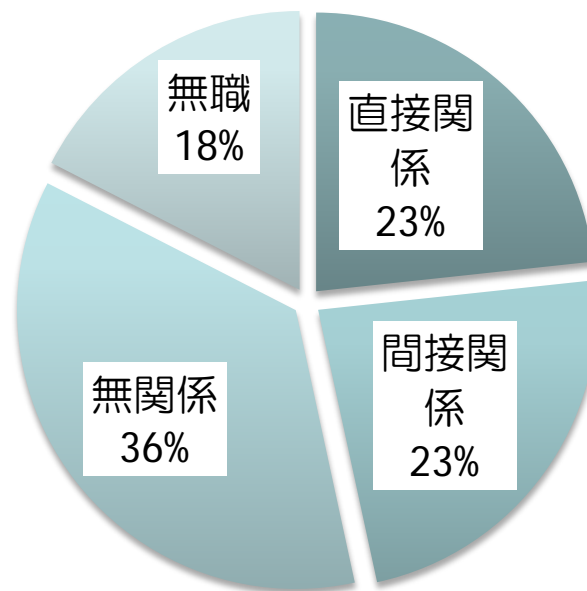


# 勤務地・仕事と観光の関係

## 勤務地(無職除く)

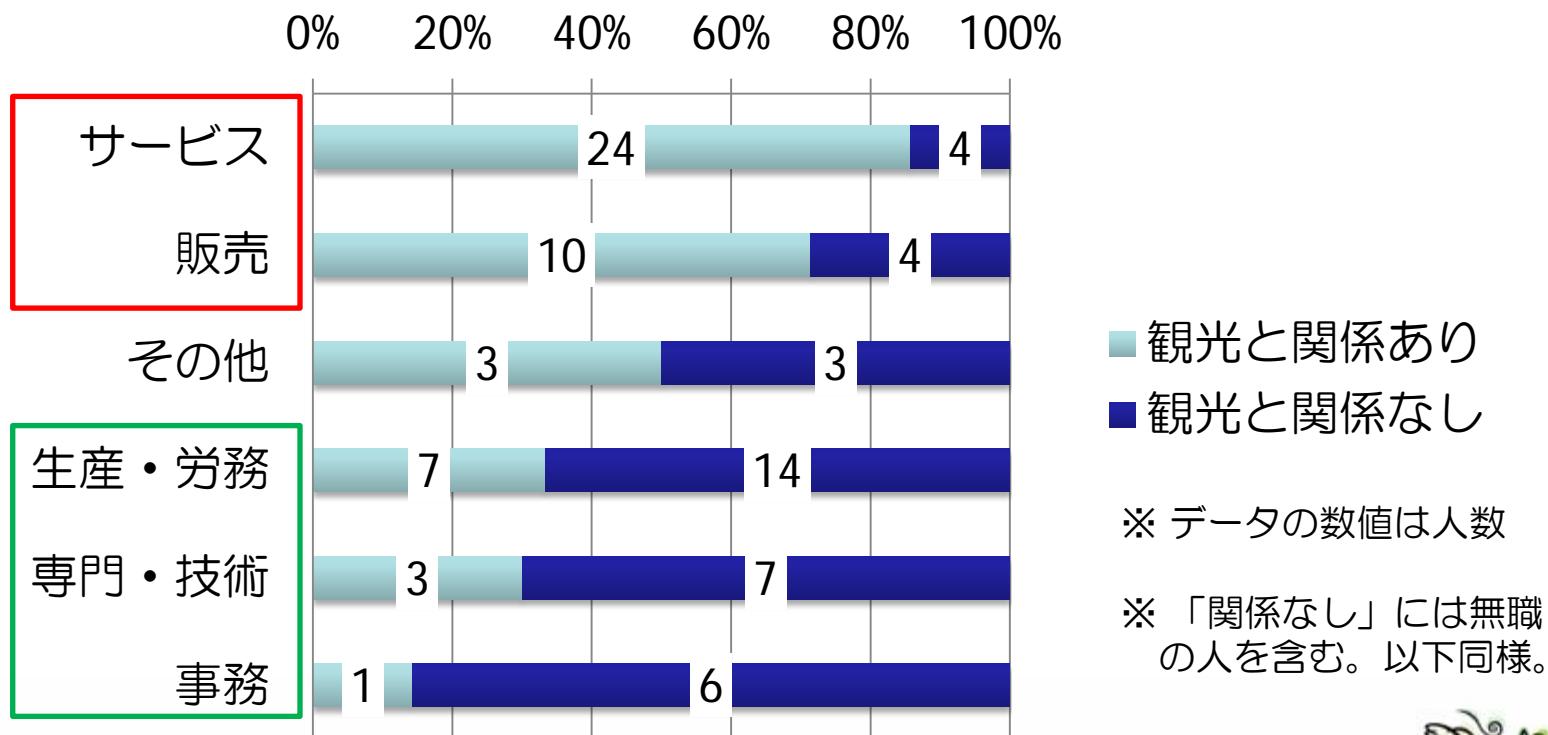


## 仕事と観光の関係



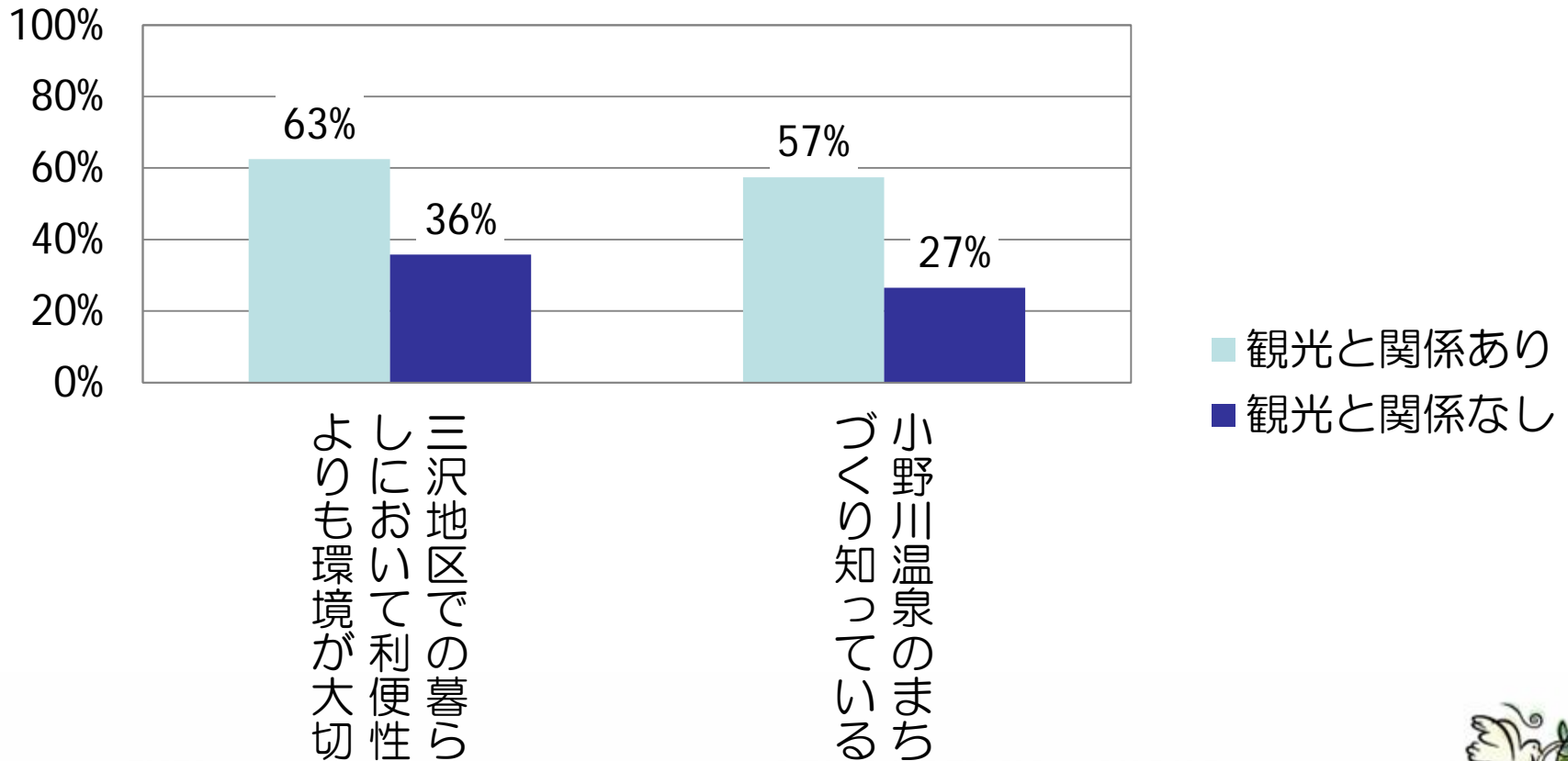


# 観光と関係が深い職業は？





# 価値観や知識の差





# 「小野川温泉景観指針」について

- ❁ 小野川温泉観光協議会『米沢市小野川温泉観光ビジョン策定調査 報告書』  
(2006年)より
- ❁ 3個の目標別の計9個の指針





# I. 美しい景観づくりに向けて

- I-1 建物前の道路に面する部分の緑化、美化を促進する
- I-2 看板やファサードなどは、色や素材を周囲との調和に努める
- I-3 川とその両岸、ホテル公園など「水辺」の保全と空間づくりに努める
- I-4 景観を乱す人工物、広告や看板の除去に努める





## II. 楽しい空間づくりに向けて

- II-1 足湯や公園等の共用空間の美化を促進する
- II-2 安心して歩ける歩行空間を確保する
- II-3 石碑や社寺等の観光資源の特性を活かす空間づくりに努める





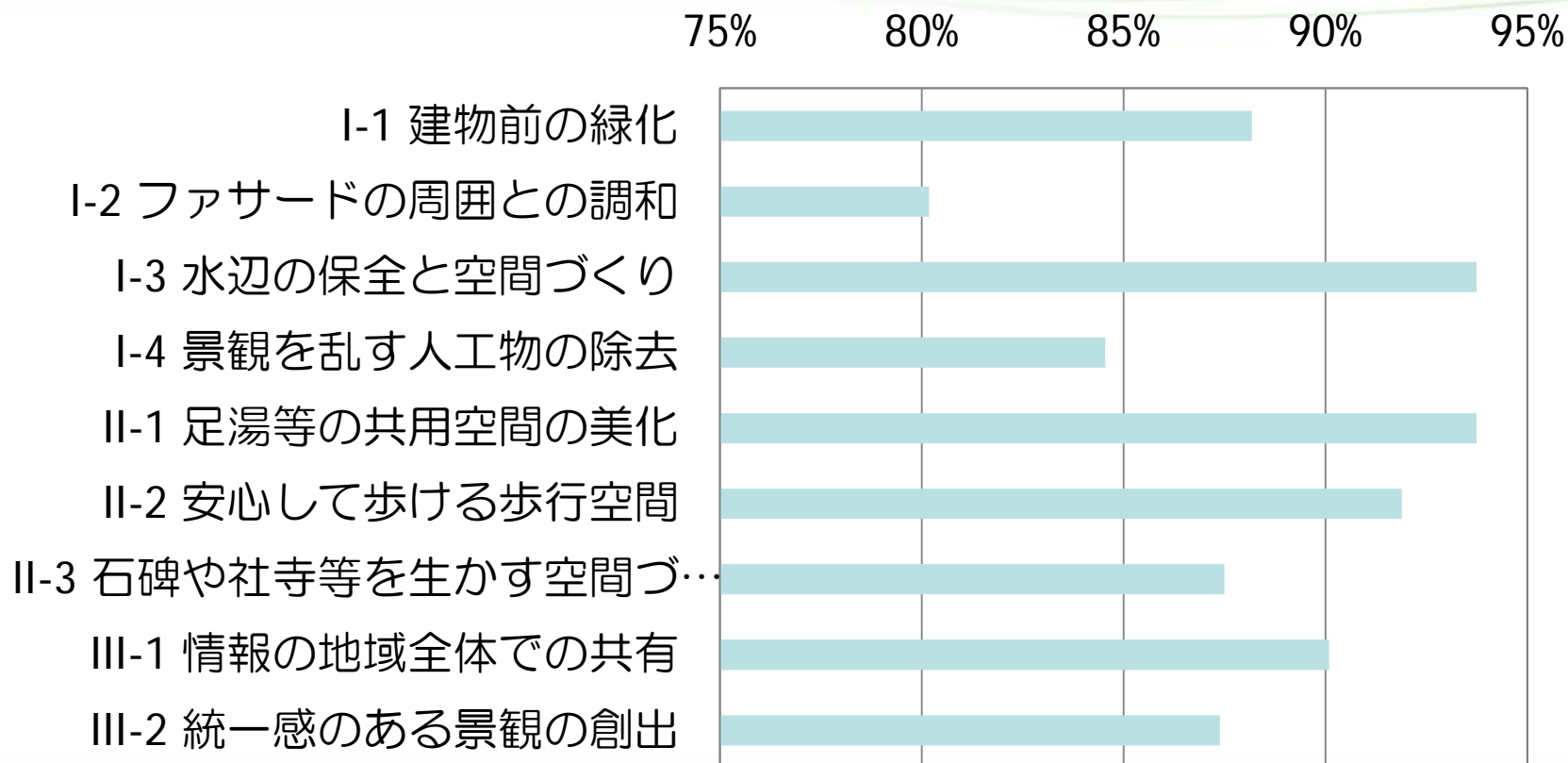
# III. 仲のよい地域づくりに向けて

- III-1 景観づくりの情報を地域全体で共有する
- III-2 統一感のある景観の創出に努める



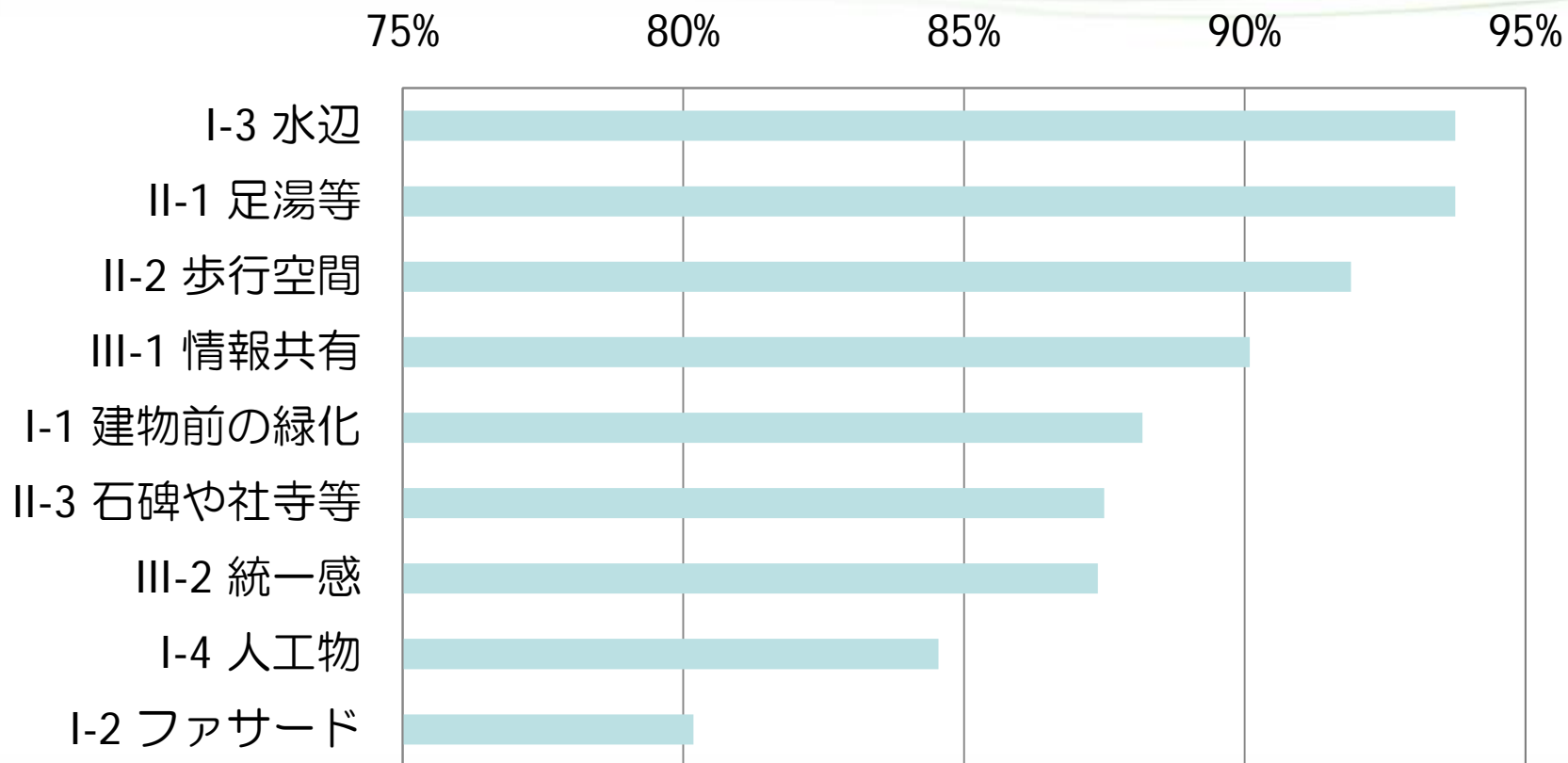


# 「重要」と思う人の比率





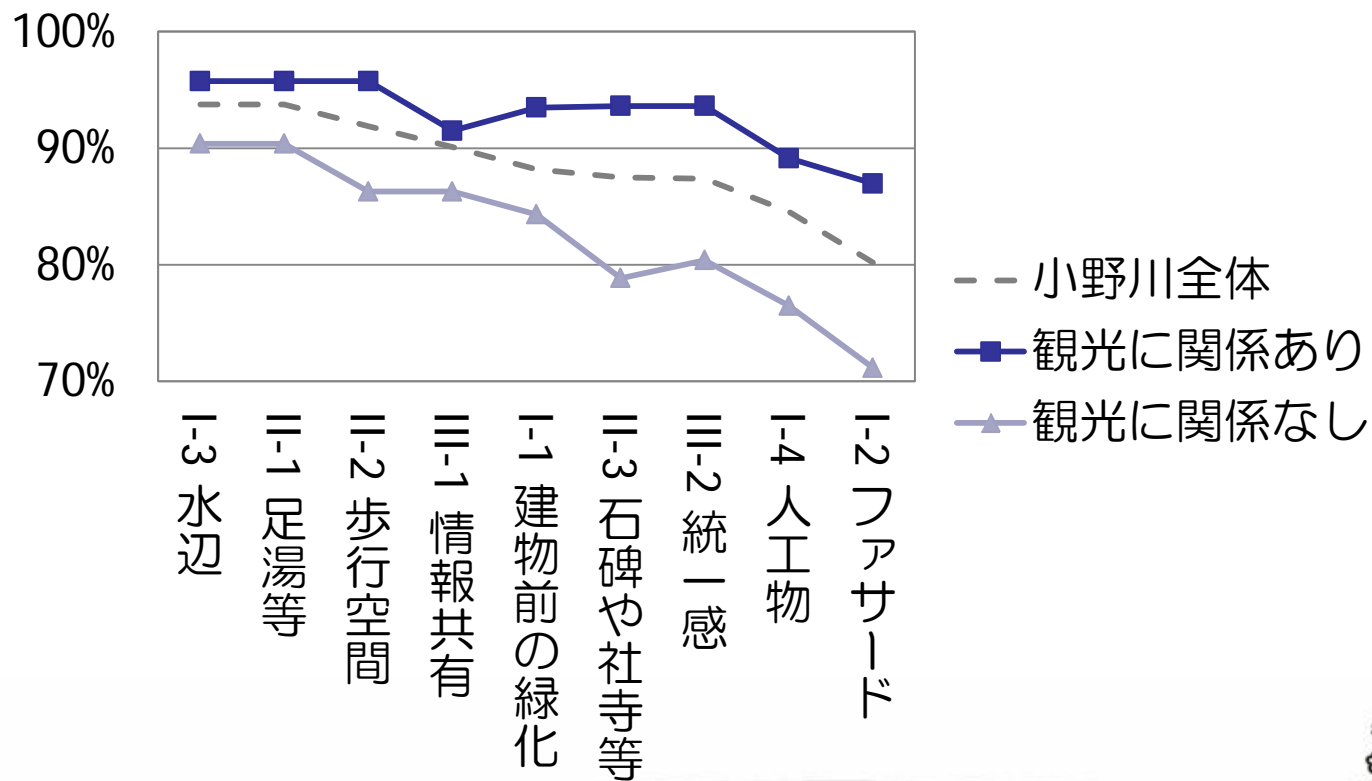
# 「重要」の比率（多い順に再掲）





# 観光との関係による意識の差

## 「重要」と感じる人の比率

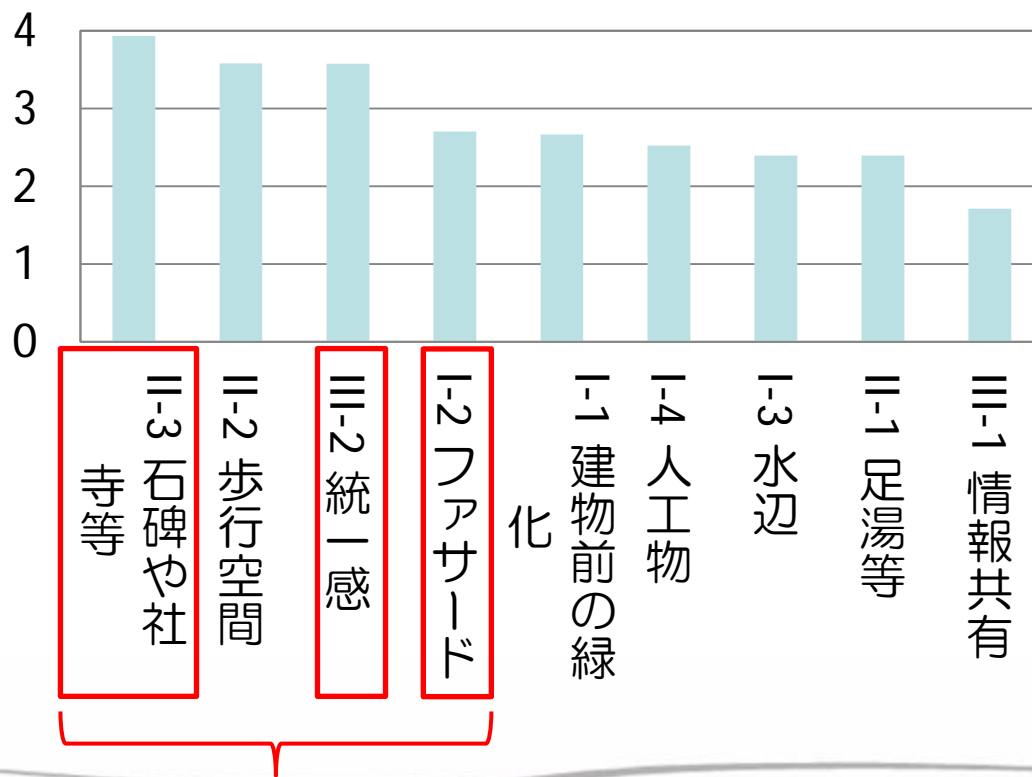






# 観光関係者の方が重要と感じやすい項目

観光関係者が関係ない人の何倍重要と感じやすいか



小野川町の住民全体でも差がある





# ここまでのまとめ

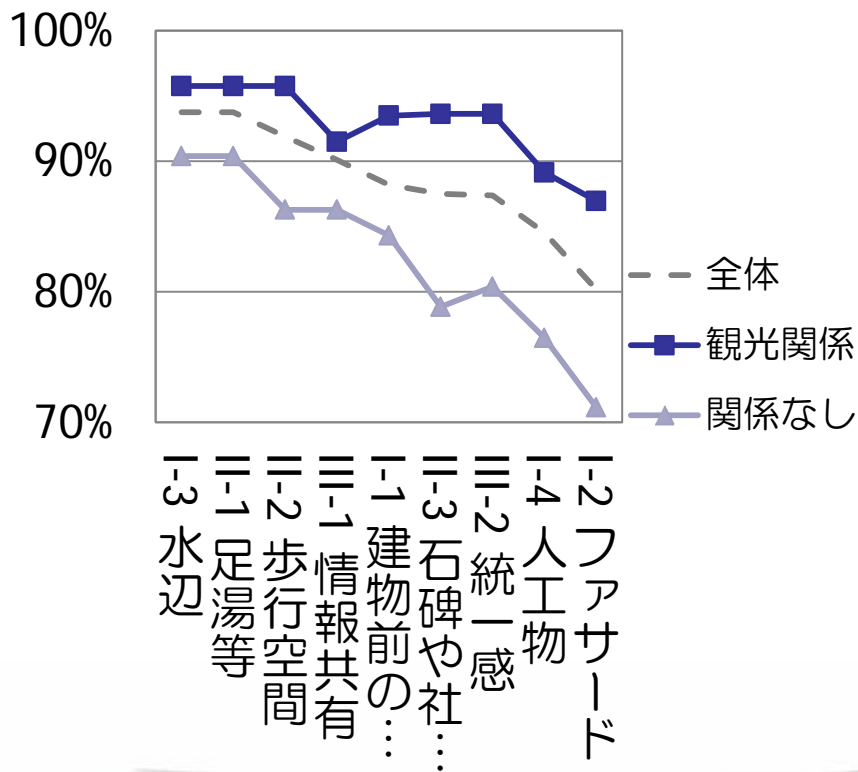
- ❁ 小野川町には、観光との関係が深い人と浅い人が、半々くらいで住んでいる。
- ❁ 暮らしにおける基本的価値観や、まちづくりへの関心や知識に差がある。
- ❁ 2006年景観指針では、実際に利用できるものは重要と思われやすく、単なる景観整備は相対的に重要と思われにくい。
- ❁ 単なる景観整備への重要性評価は、観光との関係の浅い人において特に低くなる。



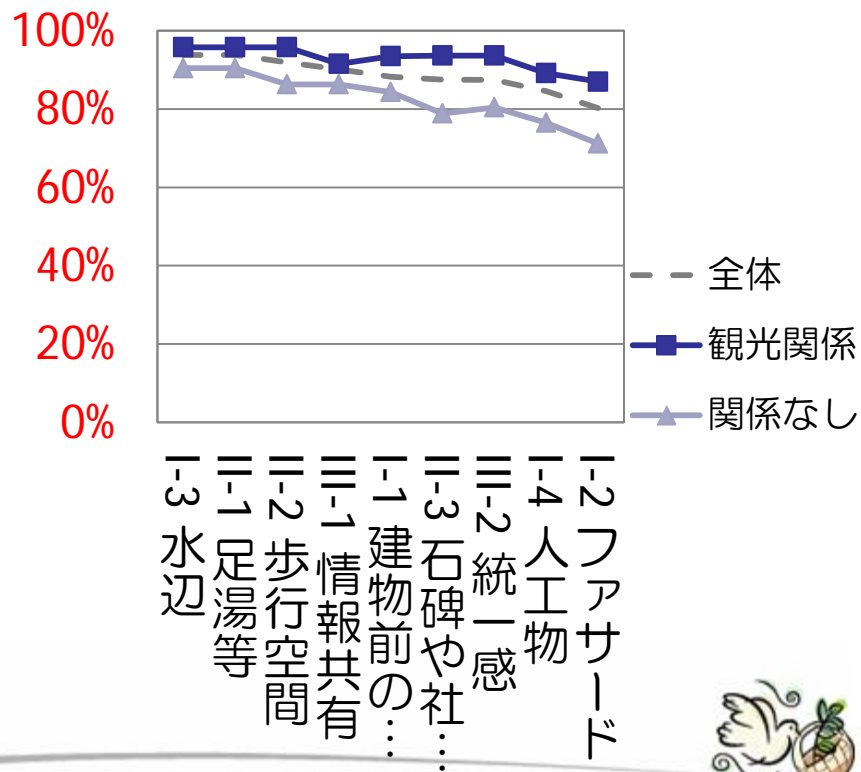


# ところで...

## 意識の「差」



## 「程度の差」！





## 観光まちづくりにおける「人の和」の重要性

- ❶ 金井雅之「温泉地のまちづくりを支える社会構造」  
『社会学年報』37号、83-91頁(2008年)
- ❷ 2007年の温泉地調査のデータ分析に基づく研究
- ❸ 温泉地の観光まちづくりにおいて、温泉地内部での観光関係者同士の協力関係（「人の和」）と、他の温泉地や専門家等との人脈（「よそ者の知恵」）は、どちらが重要か？





# 温泉地のまちづくりの課題

統一された景観や集客のためのイベントには個々の旅館の負担が必要

自館の経営や他の旅館との競争にとってはマイナス

しかしそれをしないと温泉地全体が低迷

温泉地内部での関係

まちづくりの方向性を考えるためには他の温泉地からの情報やアイデアが必要

温泉地外部との関係



木造旅館の立ち並ぶ景観  
(銀山温泉)



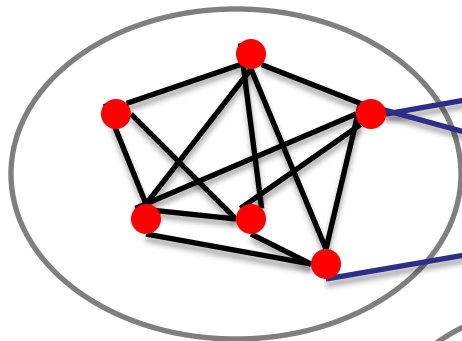
地域一体で実施するイベント  
(小野川温泉)



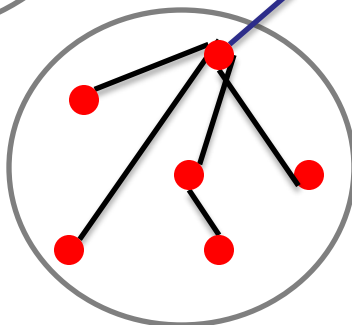
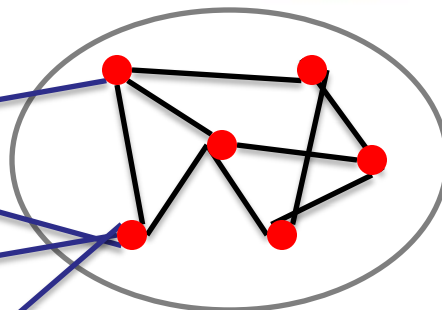


# 「つながり」の2類型

A温泉



B温泉



C温泉

集団内のつながり

集団間のつながり

内部ネットワーク

外部ネットワーク





# 各ネットワークの理論的効果

## 内部ネットワーク

- ❖ 監視や遠慮による協  
力行動の促進
- ❖ 情報伝達や意思決定  
がスムーズに

## 外部ネットワーク

- ❖ 内部では得られない  
情報やアイディアの  
入手

まちづくりに重要なのは、内部ネットワークか、  
外部ネットワークか？





## 事例：山形県小野川温泉のまちづくり

温泉街の住民の7割は観光に従事していなく、過去には地域経済に力がある旅館業と一般住民との軋轢があり、**地域一体の共存感が希薄であった**。これは小野川温泉特有の事でなく、多くの温泉地が抱える問題である。「旦那衆」と言われる大規模旅館があり、「女中さん」として働く地域民の女性がおり、地域内の平等感が損なわれ、上下関係の意識もあった。・・・この上下関係の意識は、大規模旅館と小規模旅館、旅館と商店でも存在していた。全国的に「温泉地は仲が悪い」と言われ、同業種・異業種間でも存在していた。**互いに信頼し、本音で話をできる関係は希薄であった**。

(観光協議会会長)







# 小野川温泉のまちづくり (2)

昭和55年から小野川温泉ほたるまつりが行われている。新たなる小野川温泉の魅力作りで、「ほたるの里」づくりが行われ、祭りの成功の目標に向け、旅館・商店の人が額に汗するボランティア作業が行われた。この共同作業の結果、業種や年齢に関係なく、意見を自由に言えあえる人間関係ができた。そして、「ほたるの里」づくりの成功で、個々の努力だけでなく、協力しながらの、小野川全体の魅力づくりの大切さを学んだ。

(観光協議会会長)





# 小野川温泉のまちづくり (3)

「ホテルの里」づくり以外に温泉街活性化策がなく、新たなる小野川の魅力作りを見出せない中、平成13年にJTB&JRの若手勉強会が来訪した。「そこに住む人、町全体の生活や文化を活かした観光地づくり、ハード偏重でなく地域のホスピタリティを基礎としたオンリーワンの観光地づくり」が提案された。ないもの探し、ないものねだりの新規の箱物を作る事でない、今、小野川にある素材を知り、大切にし、輝かせるまちづくりの大切さを感じた。・・・  
「ハードからソフト」のまちづくりがはじまった。

(観光協議会会長)





# ところで・・・

いろいろな魅力が発見されました。しかしそれはわれわれが探したというよりも、外部との接触によって見つかったという感じがしています。たとえば言うなら、**それまでは殻の中にいた温泉地が、外部からの圧力によって殻から出た**というようなものです。

(観光知実行委員会委員長)

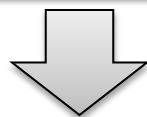
内部ネットワーク（＝殻）は、外部ネットワークと両立しうるのか？





# 問題の立て方の転換

- ✓ 内部ネットワークと外部ネットワークはどちらが重要か？
- ✓ 内部ネットワーク（殻）は、外部ネットワークと両立しうるのか？



まちづくりには発展段階があり、  
それぞれの段階で効果を発揮するネットワークが異なるのでは？

計画なし

計画中

計画完成

社会調査データによる計量的分析





# 分析枠組み



「計画なし」から「計画中」、さらに「計画中」から「計画完成」に進めるかどうか、内部／外部ネットワークの有無はどう影響するか？





# 結果と解釈



内部ネットワークが存在すること

- まちづくりへの取組みを始めるためには、旅館同士が緊密で良好な関係にあること（＝仲がよいこと）がまず必要。
- 協力関係を築きやすいから。
- この段階では外部とのつながりはなくてもかまわない。

外部ネットワークが存在すること

- 計画を形として仕上げるためには、意欲だけでは不十分。外部からの情報や視点が必要になる。





# 講演全体のまとめ

- ❖ 景観まちづくりへの合意形成においては、立場の違いによる価値観や情報量の差に配慮することが必要。
- ❖ まちづくりの初発段階においては「人の和」が何よりも大切。ほたるまつりに始まるこれまでの観光まちづくりを、小野川町全体に持続的に発展させていけるか。

